

応用環境化学コース

オリエンテーション



オリエンテーション

応用環境化学コース

主任 福島 康裕

副主任 大野 肇

履修上の留意点

1. 学生便覧
2. 修了要件
3. 関連科目
4. セミナー（研修）
5. インターンシップ研修
6. DC進学と支援制度
7. その他

1. 学生便覧

一通り読んで下さい

2. 修了要件

2.1 前期課程（修士）（参照：便覧カリキュラム表）

- ✓ 共通科目A（必修2単位）
- ✓ 共通科目B（選択必修4単位）
- ✓ 専門基盤科目（選択必修4単位）
うち2単位は関連科目で置き換え可能
- ✓ 専門科目：
 - 修士セミナー（必修4単位），
 - 修士研修（必修6単位），
 - その他科目（選択必修10単位）
うち8単位は関連科目で置き換え可能
- ✓ 関連科目：
 - 他コース・他専攻・他研究科の科目（後述）
- ✓ 修士論文の提出と最終試験の合格

2. 修了要件

2.2後期課程（博士）（参照：便覧カリキュラム表）

- ✓ 学際基盤科目（選択必修4単位）
- ✓ 専門科目：セミナー（必修4単位，下記4.2項参照）
- ✓ 博士研修（必修8単位）
- ✓ 関連科目：
 - 取得単位を学際基盤科目に置き換え可能な
 - 他コース・他専攻・他研究科の科目
- ✓ 博士論文の提出と最終試験の合格

3. 関連科目

3.1 前期課程（修士）

- 以下は全て関連科目として認める
 - 「環境科学研究科内他コースの講義科目」
 - 「工学研究科にて開講の講義科目」
- それ以外の研究科において開講される科目も、申し出によっては関連科目として認めることがある。
- 関連科目による修了単位充足は専門基盤科目にあっては2単位まで、専門科目では8単位までとする。
すなわち、関連科目による修了単位充足をしようとする場合、専門基盤科目および専門科目双方において自コースの科目2単位をそれぞれ必ず履修していること。

**推奨関連科目：時間割表参照のこ
し**

3. 関連科目

3.2 後期課程（博士）

- 関連科目履修によって修了単位充足が認められるのは、学際基盤科目 2 単位のみである。
- 関連科目とは、他コースないし工学研究科が開講する講義形態の「～特論」「～論」といった科目である。

すなわち、関連科目履修により学際基盤科目の単位充足をしようとする場合でも、必要単位 4 単位の内、自コースの特論等から 2 単位を履修していなければならない。

**特論の実施日について
化学・バイオ教務からの通知に注意**

3. 関連科目

3.3 関連科目履修手続

- 認定を受ける関連科目の履修にあたっては、期日までに「関連科目等履修科目届」を提出すること。
- 提出には指導教員と授業担当教員の承認が必要である。
- Web登録不可。様式をGoogle Classroom「【環境】講義情報」からダウンロードのこと。

履修計画について

応用環境化学コースの講義（化学・バイオ系講義）はこれまで隔年開講でしたが、2023年より原則毎年開講になりました。

- 多くがオンデマンド教材を用いた講義になります
- オンデマンドだけでなく、「集まる」機会も提供されます

各学期に履修できる単位数について、上限が原則12単位と設定されました。

- 在学期間の初めにまとめて履修するのではなく、余裕を持って各講義に力を注ぐために、研究と並行して履修することをお勧めしています。

ただし、「応用化学特別講義」、「化学工学特別講義」、「バイオ工学特別講義」は除く。また、通年科目の単位数は4.5として計算する。

4. セミナー（いわゆる研修）

4.1 修士セミナー

専門科目（必修）として修士1年次に行う。その内容は、修士論文研究の設計において重要な位置を占める文献の紹介を、自己の研究の背景と意義に関連させて発表し（11分）、それに対する質疑応答を行うものである。

実施日・実施要領のアナウンスに注意。

4.2 博士セミナー

（下記のいずれかを履修すること。選択必修）

応用環境化学
博士セミナー

応用環境化学
国際セミナー

応用環境化学博士セミナー

専門科目として博士1年次ないし2年次に行う。

博士論文研究に関連した分野の研究最前線に関するレビューの発表（20分）を内容とする。

自己の研究成果を一部含むことが望ましい。

実施日・実施要領のアナウンスに注意。

応用環境化学国際セミナー

博士論文研究に関する研究成果を国際学会などで発表かつ討論するに十分な語学力、ディベート力、コミュニケーション能力の育成を目的とする。






本研修には国際学会などでの実際の研究発表・質疑応答が含まれ、さらに事前にプレゼンテーション資料の作成や発表に関わる練習を行う場として、グループディスカッション（15回以内程度）を行う。

グループディスカッションに参加の上、発表に基づく積算ポイント60ポイント以上が要件。

**グループディスカッション初回アナウンス
に注意すること**

化学・バイオ国際特別研修（工学研究科） 応用環境化学国際セミナー（環境科学研究科）

博士論文研究に関する研究成果を国際学会などで発表かつ討論するに十分な語学力、ディベート力、コミュニケーション能力の育成を目的とする。本研修には国際学会などでの実際の研究発表・質疑応答が含まれ、さらに事前にプレゼンテーション資料の作成や発表に関わる練習を行う場として、グループディスカッション（15回以内程度）を行う。グループディスカッションに参加の上、下記の積算ポイント60ポイント以上が要件。

履修モデル	前期 Semester		後期 Semester		
	1年次			化学・バイオ博士特別講義（推奨） 	
	2年次	化学・バイオ国際特別研修（グループディスカッション D2討論会、国際学会発表など） 			
	3年次	国際学会発表など 			

積算ポイント	a. 国際会議(国内外)における英語口頭発表		50ポイント
	b. 化学・バイオ系で認定された博士課程後期学生を対象とする学内研究討論会(D2討論会)(英語)		40ポイント
	c. 「国際」のつかない国内学会での英語口頭発表		30ポイント
	d. 国際会議における英語ポスター発表		20ポイント

5. インターンシップ研修

博士課程前期・後期ともインターンシップ研修の履修を希望する場合は副主任に申し出て、了解を得た上で必要書類を提出すること。

→ この手続を行わなかったインターンシップについては単位が認定されない。

→ インターンシップ研修による公欠は認めない。

6. DC進学と支援制度

各種支援等名称(学内)

- * グローバル萩奨学制度
- * 東北大学元気・前向き奨学金
- * リオテント・コマツ奨学金
- * 東北大学大学院リーディングプログラム奨励金
- * 東北大学学際高等研究教育院博士研究教育院生
- * 国際共同学位取得支援制度

各種支援等名称(学外・その他)

- * 日本学術振興会特別研究員
- * 地方公共団体、その他民間奨学財団等の実施する給付型奨学金

DC進学者には、（申請すれば）最終的には何れかの支援制度が適用されているのが現状です。

7. その他

- 先端環境：専門性を磨いて，広い視野を
- "Leave your Comfort Zone and Enter your Growth Zone"
留学，isCEBT，国際学会，他コース・研究科の学生との交流
- 就職活動と研究：研究活動を通して自信を獲得しましょう
- メンタルヘルス：
研究，人付き合い，就職活動，人生設計，コロナ禍...
「人は努力する限り悩むものである」が，抱え込まないように

応用環境化学コース

2023 主任 福島 康裕 教授 fuku@tohoku.ac.jp

2023 副主任 大野 肇 准教授 h.ohno@tohoku.ac.jp